

やぐま

八熊という地名は、明治になってから誕生したものです。もと

に よしむら くに よしむら

もとの地域には二女子村、五女子村という村があり、明治1（1878）年にふたつの村が合併して八熊村となりました。

名前はそれぞれの村の神社の頭文字から取られたもので、五女

はちけんしや

くまのじんじや

そん

子村の八劔社の八と、二女子村の熊野神社の熊をあわせて村

めい

やわたむら

名としました。八熊村は、明治22年には近隣と合併し八幡村となりますが、地名は現在まで続いています。

りようそん

両村とも珍しい名前ですが、かつてこの付近で力を持っていた

領主が七人の娘を土地付きで嫁がせ、その土地に一から七まで

の数字を付けた故事に由来すると言われます。江戸時代は、

とうかいどう

わきかいどう

ちようせんつうしんし

ちや

東海道の脇街道としての役割を担っており、朝鮮通信使や茶

つぽぎようれつ おつらい

さやかいどう

さやじ

壺行列が往来した佐屋街道（佐屋路）が通っているため、道の

じんぼ

改修の負担や行列通行時に人馬の供出が求められました。現

いちりづか

在、東海道新幹線の高架近くには一里塚の跡があり、当時の

かぼちや

雰囲気伝えます。江戸時代後期には両村とも南瓜をつくり、

しもおたい

下小田井の市場に出荷していたようです。

八幡村は大正10（1921）年に名古屋市南区となり、昭

和12（1937）年、再編成により中川区となりました。

【参考資料】『中川区の歴史』（愛知県郷土資料刊行会）、『角川日本地名大辞典 2

3』（角川書店）、『名古屋叢書 続編 第4巻（尾張徇行記 1）』（名古屋市教育局

委員会）

二〇一五（平成二七）年十一月作成



←二女子村と五女子村を現在の地図に重ね合わせたものです（推定）。

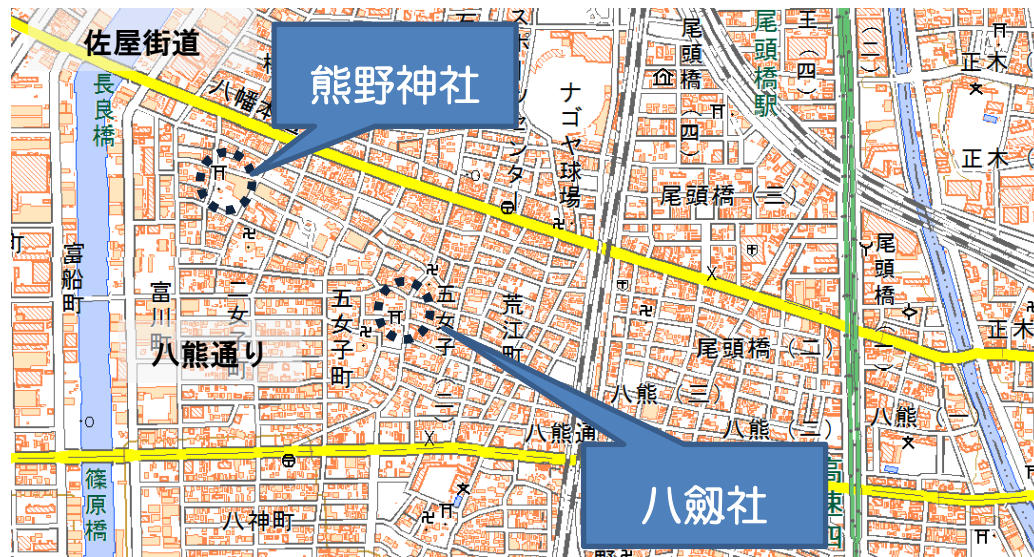
『地図でみる露橋の歴史』から。



↑二女子であがめられて来た熊野神社。境内にはクスノキやエノキなど多数の保存樹が茂っています。



↑『尾張志付図』から二女子村・五女子村周辺【天保（1830～1844）年間】



↑国土地理院地図から現在の様子



↑五女子の八剣社には、「力持ち石」も残されています。